

日本鉱物学の父にして 古書籍蒐集に尽力した 和田維四郎



和田維四郎肖像
(国立国会図書館蔵)

明 治期に設立され日本の産業を支えた官営八幡製鉄所の長官を務め、日本鉱物学の父とも呼ばれるのが小浜出身の和田維四郎です。維四郎は、安政3（1856）年に小浜藩士和田耕甫の次男として生まれ、明治3（1870）年に貢進生として開成学校（後の東京大学）でドイツ人カール・シエンクに学び、近代鉱物学の基礎を修得しました。

維四郎は、明治11（1878）年に『本邦金石略誌』を出版するなど、鉱物学の研究成果を発表するとともに、学生のための教科書も手掛けました。ドイツ留学後は、東京大学教授を務めるとともに、農商務省地質局長として鉱石調査や地質調査などを進め、日本の産業発展に大きく貢献しました。その後、八幡製鉄所の2代目長官として原材料と燃料の安定確保に務め、自ら中国へ渡り鉄鉱石を輸入するなどしました。明治35（1902）年、製鉄所長官を退官した後も、鉱業発展に力を尽くし、当時、大きな問題であった鉱山の煙毒問題にも取り組んでいます。

明治37（1904）年には自身の研究の集大成として『日本鉱物誌』を著し、国産鉱物130種類を紹介して近代鉱物学の基礎を確立すると同時に、英訳した『MINERALS OF JAPAN』を出版して日本の鉱物学を世界へ広く紹介しました。なお、蒐集した約4千点に及ぶ国産鉱物は、「和田コレクション」として現在も残されています。

また、維四郎は、古書籍類の蒐集と書誌学の研究者としても大きな功績を残しています。当時、洋学が盛んになる中で、維四郎は古書籍の散逸を危惧し、岩崎久弥（岩崎弥太郎の子）や久原房之介などの援助を受けて古書籍を蒐集しました。この膨大な古書籍約4万5千点余は、現在、東京の東洋文庫などに収められています。また、江戸時代初期に本阿弥光悦らが出版した「嵯峨本」に関する書誌学的な研究をまとめ、光悦の意匠による雲母摺、色変り用紙を再現した『嵯峨本考』を出版するなど、江戸時代初期の出版文化・書誌学研究の発展にも寄与しています。

維四郎は、鉱石学者と書誌学者としてだけでなく、故郷若狭にもその名を残しています。明治19（1886）年に小浜中学が廃止された際には、若狭の教育のために多額の寄付をされており、また、同じ若狭出身の佐久間勉の記念碑建立に当たっては自ら寄付金集めをしたとい

われています。生涯を通じて多彩な才能を発揮し日本を代表する研究者となった維四郎。その研究心の根幹には故郷を思う心があったのかもしれない。

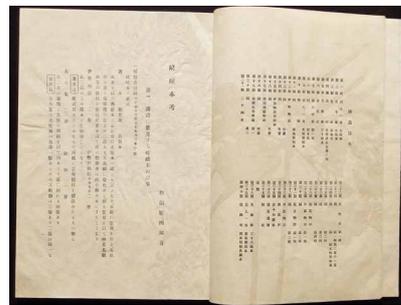
関連史料・ゆかりの地

公益財団法人 東洋文庫



和田維四郎が蒐集した古書籍が保管されています。事前に申請すると維四郎が蒐集した書籍を閲覧することができます。また、ミュージアムも併設されています。

【住所】東京都文京区本駒込 2-28-21（JR・東京メトロ駒込駅から徒歩 8 分）



日本の歴史資料の価値を紹介した『嵯峨本考』
(小浜市教育委員会蔵 酒井家文庫)

参考資料等

和田維四郎『嵯峨本考』、福井県文化誌刊行会編『我等の郷土と人物』第3巻
小浜市立図書館編『和田維四郎』

執筆・協力

小浜市教育委員会文化課